

National
Parks
of Japan



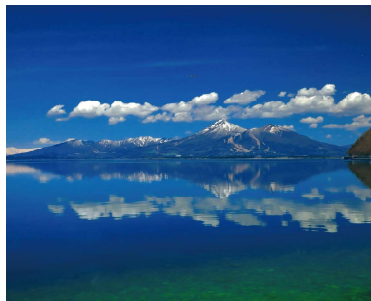
環境省東北地方環境事務所 裏磐梯自然保護官事務所

ふくしま湖美来

「次代に残そう紺碧の猪苗代湖、清らかな青い湖 裏磐梯」

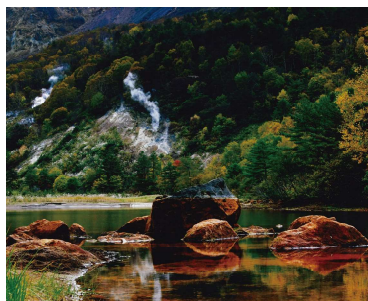
磐梯朝日国立公園にある猪苗代湖と裏磐梯湖沼群では
多くの人々がトレッキング・キャンプ・釣り・湖水浴などの自然体験を楽しんでいます。
また水力発電や灌漑用、水道用の水源として利用されています。
この磐梯朝日国立公園の豊かな自然に恵まれた良好でうつくしい水環境を
未来の世代に引き継いでいくために「次代に残そう紺碧の猪苗代湖、清らかな青い湖 裏磐梯」を目指して
“ふくしま湖美来”は水環境を守る活動を支援しています。

猪苗代湖の成り立ち



猪苗代湖の形成は、洪積世中期の中頃（約20～30万年前）に猪苗代盆地の形成があり、現在の湖の東側と西側の両断層により地面が陥没して猪苗代盆地できて、その後、約8万年前頃に古磐梯山の噴火により流路がふさがれ、盆地の低い部分に水が溜まって猪苗代湖の原型が出来たと推定されています。別名「天鏡湖」と言われるほど鏡のように空を移す湖面と透明度が高い美しい湖です。全国でも珍しい「湖水浴」が盛んで、白鳥が越冬するなど多くの人々が楽しめる湖でもあり、安積疎水や水力発電など、豊かな水資源で多くの人々の暮らしに役立っています。

裏磐梯湖沼群の成り立ち



磐梯山は、明治21年（1888年）に大爆発し、その時の岩石泥土が、吾妻連峰から流れ出る川や沢をせき止めて、裏磐梯高原を形成し、松原湖、小野川湖、秋元湖の3つの大きな湖を形成し、噴火で押し出された泥流の窪地に水が溜められ、数多くの小さな湖や沼が生まれました。これらの湖沼の中には、毘沙門沼に代表される五色沼群をはじめ、水に含まれる化学成分や水深などにより独特の色や性質を持つものがたくさんあります。裏磐梯高原は、磐梯山や猪苗代湖とともに磐梯朝日国立公園の中心的な観光地・スキー場として親しまれており、また、裏磐梯高原を形成する湖沼群は、自然探勝や保養、キャンプ、釣り等の観光レクリエーションの場となっているほか、内水面漁場や水力発電用水としても利用されています。

○磐梯朝日国立公園



○磐梯朝日国立公園のHP

<http://www.env.go.jp/park/bandai/index.html>

○湖美来のHP

<https://mizu-mirai.jp/>

○日本の国立公園めぐりスタンプラリー

